

身近な異次元空間を楽しむ!



むらおかたかあき
えびの市長(宮崎県) **村岡隆明**

バイクの魅力に取りつかれて…

私の週末は、ライダースーツに手を入れるところから始まります!と言いたいところですが、なかなかまとまったプライベートタイムがつけられずにいます。それでも少し空いた時間があれば、バイクにまたがって近くのワインディングロードを楽しんでいます。

私が初めてバイクに乗ったのは大学時代でした。到底車など買えるわけもなく、バイクでコッコツためたお金で125ccのオフロードバイクを買ったのが最初でした。バイクショップで鍵を渡され、初めて自分のバイクで走りだした時の感動は今でも忘れられないものです。学生時代には、バイクでアメリカ大陸横断(1万km)も経験することができました。卒業後、モータースポーツ関係の仕事に就き、まさに趣味が仕事になった充実した時期を過ごしました。その後、家庭の事情で故郷に帰ることになりましたが、バイクに対する情熱は冷めることなく、大自然の中にある素晴らしい林道との出会いは、逆にそれを加速させることになりました。

子どもが大きくなると、モトクロッサーを買い、箱パンに乗せて走りに行ったり、バイクの後ろに乗せてキャンプに行ったり、子育てにも大きな役割を果たしてくれました。多いときは5台所有していたバイクも、

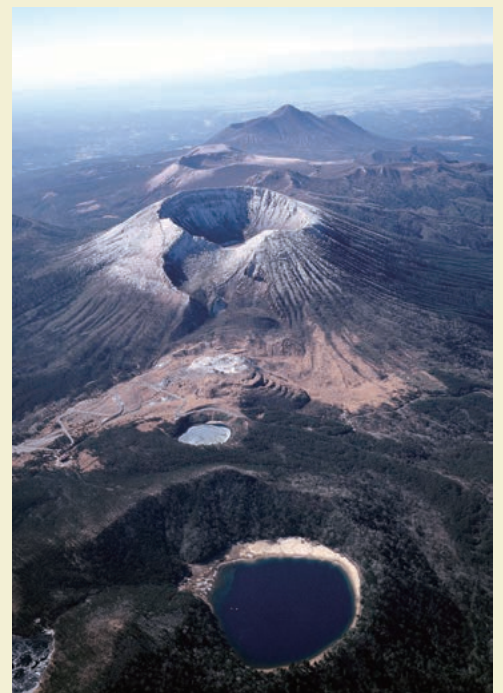
今では125ccのロードバイクが1台になりましたが、それでも私をワクワクドキドキさせてくれる素晴らしいパートナーです。

バイクは、外気に触れるし、路面の状況もダイレクトに伝わるし、何よりも神経を集中させ、情報を確認しながら走るところが、車の運転と圧倒的に異なる魅力です。運転しながら仕事のことを考えたりすることはできませんので、気分転換にもうってつけですし、限られた時間内であっても、事前の予約など無くても、すぐに異次元の世界へ行けるところも今の生活に合っている気がします。

えびの市の異次元空間

こんなに自然を満喫できるバイクですが、えびの市には最高の環境が整っているのです。

まず、宮崎県・鹿児島県・熊本県の県境にあり、南九州のど真ん中にあるという地理的魅力。阿蘇・由布院・高千穂・青島・日南・指宿(いぶすき)・天草など、南九州の主要観光地には、高速道路を使わなくても十分日帰りで楽しめます。九州自動車道のジャンクションもありますので、高速道路を使うとさらに行動範囲が広がります。本市を



日本初の国立公園「えびの高原」

ベースキャンプに設定し、南九州の魅力をじっくりと満喫される方も増えてきました。宿泊施設も多種多様なものがあります。宮崎県では唯一の温泉郷である京町温泉・吉田温泉は、それぞれの旅館が自家泉源を持っており、泉質も多種多様、いろんな温泉を楽しめます。また、日本で最初に国立公園に指定されたえびの高原にある市営キャンプ場は、ケビンの改修なども終わり、今後は温泉施設のリニューアル、グラッピングの導入も予定しています。

さらに、県立自然公園矢岳高原ベルトンオートキャンプ場は、えびののカルデラと霧島山が一望でき、雲海を見ることができ、絶景スポットでもあります。また、最近では全日本トライアル選手権も開催され、トライアルライダーのメッカにもなっています。

本市は中山間地域で、火山カルデラの盆



愛車「カジバラブトル125」と筆者



矢岳高原から望む霧島連山と本市

地に位置していることから、ワインディングロードや魅力的な林道は数知れず、特にえびのインターチェンジ近くの「道の駅えびの」からえびの高原までのルートは、

コーナーごとに気温が下がってくるのがわかります。火山の絶景を楽しみながら大自然を体感でき、四季を通じて多くのライダーでにぎわっています。

私も、これからもエンジンジョイライディングで、さらにえびのの魅力を再発掘していきたいと思っています。

もう一つの異次元空間

実はもう一つ、私はインドアな疑似空間も持っています。物心ついたころから継続して作り続けている「プラモデル」がそうです。

私たちの世代の方々であれば、一度は作られた経験があるのではないのでしょうか。お小遣いを握りしめて、駄菓子屋の棚の前でドキドキしながら選んでいました。今はネットでカード決済ということも増えましたが、買う時の興奮は今も変わりません。

中学・高校・大学と体育会系の部活を続けていましたが、くたくたになっても家に帰るとプラモデルの箱を開けて作っていました。結局大人になっても卒業できず、私にとつてのライフワークになっています。

プラモデルは、選ぶ時から疑似空間がスタートします。古いお城から世界大戦の兵器、最新の車や架空のロボットなど、市場にはあらゆる疑似空間が準備されています。作製に当たってはその時代背景などを細かく分析し、リアル感を追求することも



1/12の疑似空間!

大きな楽しみです。例えば古いF1マシンを作るとなると、再現されていない配線を追加したり、金属の焼けた表現を追加したり、サーキットに合わせて改修されたパーツを新たに再現したり……。昔と違ってネット上の情報は無限大です。興味のない方にはその違いさえ分からない部分でも、分かる人には分かる。まさに自己満足の世界ですが、「あーでもない！こーでもない！」と調べ、仲間たちとSNSで情報交換し、追加加工を施し、完成した時の喜びは何物にも代えがたいものがあります。

想像を膨らましながらか、正確なりサーチを繰り返し創り上げていく、まちづくりとプラモデル作り、似ているような気がするのは私だけでしょうか？